

残暑厳しい9月の始まり。毎年恒例になっている宿泊研修に行ってきました。「依存症の回復とは何かを考え、自分の問題を知る」をテーマに、日程は一泊二日。回復施設や名所旧跡の見学などを経てどんなことを考えたのか。メンバーのみんなの声をどうぞ。

1. 宿泊研修行程

＜一日目＞

朝、すとおりの出発 → 東山旧岸邸見学、“とらや”にて休憩 → 伊豆フルーツパークにて昼食
 → 静岡ダルク訪問 → 宿泊先“大仙家”到着、夕食後にミーティング、そして就寝。

＜二日目＞

朝、大仙家出発 → 箱根関所見学
 → 箱根神社、九頭竜神社参拝 → 大涌谷見学
 → 鈴廣かまぼこの里にて昼食 → 小田原城見学
 → 夕方、すとおりの着。解散。



2. 宿泊研修の感想

＜M.Nさん(就労継続支援B型)＞

今回、九月四日・五日にかけて、研修に参加し、静岡・神奈川と素面で団体行動しました。初日は静岡ダルク施設にて交流を深め、施設の紹介やステージ制についての話、施設長のお話等、沢山聞きました。これをステップアップとして、自分の成長の目安になると思い、とてもいいなと感心しました。また、何か所かの作業所を車で案内してくれました。作業場所が一カ所ではないので、それぞれ作業をセッティングして、やりやすい作業を整えていかないとはいけないのは大変だと思いました。

利用者さんも、若い方が多いのに驚きました。それと、大仙家の風呂・食事もよかったです。お風呂は、三回も入りました。自然も沢山あり、空気も良かったです。

二日目は歴史文化見学の散策でしたが、自分は箱根関所に一番感心しました。当時のままの残っており、色々と考えさせられる内容でした。自分にとって、この二日間、色々なところに行き、充実だったかは分からないけど、楽しく過ごせた二日間だったと思いました。



＜九頭竜神社にて＞

<Y.Nさん(就労継続支援B型)>

今回の宿泊旅行で印象に残ったことについて書き記します。出発して一時間半ほどで東山旧岸邸・とらやに到着しました。A級戦犯であり、戦後はアメリカのCIAのエージェントを務めた岸さんについては良い印象はありませんが、とらやで食した羊羹はとても美味でお土産を買って帰ったほどでした。次に静岡ダルクの方々との交流、我々を歓待して下さりとても感謝しています。宿泊先は大仙家で温泉施設がとても充実しており、とてもくつろいだ時間を満喫出来ました。翌日は、箱根関所、九頭竜神社を巡った後、大涌谷を訪れました。大涌谷は荒涼とした大地から白く湯気が立ち上り、その先には富士山が望めるという大地の息吹を感じられる場所で、パワースポットとしても有名な場所であるとのことでした。その後に訪れた小田原城、SAMURAI館は甲冑や刀剣を展示してあるのですが、僕はこういったものに美的な価値は見出せないで、ただ不気味な印象だけが残りました。旅行を通じて、普段はあまり話をする機会のない方とも交流できたことも良かったと思っています。

<M.Iさん(就労継続支援B型)>

まず始めに、わくわくしながらバスに乗りました。

最初に行った東山旧岸邸は、とても豪邸でした。ソファに座って見た庭は広くて静かなところで、こういうところで岸さんは過ごしていたことがわかりました。

静岡ダルクでは、就Bの人達がコーヒー豆の袋詰めをしていました。作業としては珍しい作業だなと思いました。

九頭竜神社ではお手水のところに竜がいて、これが名前の由来なんだなと思いました。去年行った善光寺よりは小さいなと思いました。

大涌谷では黒たまごを一つ食べ、おいしかったです。

鈴廣のかまぼこも歯ごたえがあり、おいしかったです。

小田原城に登ってみて、ずいぶん、景色のいいところだなと思いました。

帰りのバスで今年の研修旅行も終わりだと思うと、寂しい気持ちになりました。

<Y.Iさん(就労継続支援B型)>

私は、今回の宿泊研修で2度目ですが、今回の宿泊研修ほど自分の為になった事はありません。

静岡ダルク、旧岸邸、箱根の関所、九頭竜神社新宮、小田原城・SAMURAI館、大涌谷と見学させていただいて、本当に為になりました。

特に自分の為になったなと思ったのは、静岡ダルクの施設長の「ひかる」さんのお話で、感動しました。

残念だった事としては、小田原城の天守閣には足が痛んで入らなかったことがあります、その後で行ったSAMURAI館は見学できたので良しとしときましょう。

今回の宿泊研修のような研修なら何度でも行って見たいと思ったのが私の感想です。



<小田原城にて>

<K.Fさん(就労継続支援B型)>

今回は一泊二日で静岡に行ってきました。僕は前回に引き続き実行委員としての参加となりました。当初四人いた実行委員が当日は二人にまで減ってしまったので少し不安でしたが、大きなアクシデントも無く研修を終えられたので良かったです。

まず一日目に静岡ダルクに研修に行きました。静岡ダルクの施設長の話ではダルクは一から四までのステージ制になっているとのことで、自分の立ち位置がはっきりわかるので良い仕組みだと思いました。利用者たちに少しでも幸せになってほしいと言う話を聞き、そんなふうを考えてくれるのなら、僕も次スリップしたらダルクのお世話になるのも悪くないと思いました。

また、夜寝るとき、以前の宿泊研修ではあまり眠れなかったのですが、今回はぐっすり熟睡できたのでそんなところからも自分の成長を感じました。



<九頭竜神社にて>

<Y.Sさん(就労継続支援B型)>

団体行動って苦手なんですよ。

団体のツアー旅行なんて人生で一度も経験したことがないし、経験したいと思ったこともありません。まあ、「すとおりのい」にお世話になっているから参加せざるを得ないっていうか……研修旅行ではなくて宿泊研修だし。

静岡ダルク施設長からのお話は、私が渋谷ダルクでさんざん勉強して来た内容と変わりなく、改めて思ったのは「あの様な厳しいステージを通過して卒業までこぎつけたものだよな〜って」よく辛抱したものです。

今回の宿泊研修で印象に残っているのは、大涌谷へ行く途中、軽い硫黄の匂いとカーブの連続で久しぶりの車酔いをしてしまって、大涌谷と鈴鹿かまぼこの里が楽しめなかったのは残念ですね。

あとは小田原城かな〜？

あの高さを階段で登るのはかなりシンドいと思っていましたが、気付けば天守閣に一番乗りで登ったことはまだまだ老いてはないって自信が持てました。

っていうことは展示物をろくに見ていなかったと言えますけど。

<N.Sさん(就労継続支援B型)>

今年も、この時期がやって来ました。静岡に一泊二日の宿泊研修。一日目は静岡ダルクとの交流でした。訪問したダルクの事務所では、活動内容として、ステージ1から4まで段階的に回復する流れについて、ていねいな話を頂きました。目的でもある依存症の回復とは何かという事に対して、向きあう時間となりました。これからの行動として、回復とは何かという事を真剣に考えさせられました。貴重な時間だったと思いました。その他でも、箱根・小田原の歴史を歩いて見学して、戦国の物語を垣間見ることができ、中身の濃い宿泊研修となり、あっというまの二日間でした。今回の宿泊研修で頂いた目的を自分の一年のテーマとして行動していきたいと思いました。

<N.Sさん(就労継続支援B型)>

今回の研修旅行は、私自身にとって非常に有意義なものになりました。特に旅行の企画段階から参加し、その計画がほぼ問題なく進行したことは、達成感や、自分の成長につながった経験でした。

まず静岡ダルクとの交流では、我々と同じ問題に取り組んでいる人々を、直接見学し、自他との回復の違いが認識できて、今回の旅行のテーマとも合致し、計画の成果の一つとなりました。また大涌谷や小田原城、そして神社への訪問を通じて歴史や自然、文化に触れながら、リフレッシュする時間も持てたことが、旅全体を充実させるものになったようにも思えます。

旅行全体がスムーズに進行し、予定通りに目的地を巡ることも大きな満足感となりました。このような経験は今までなかったものですが、他のイベントにも活かされる貴重な経験になったと確信しています。

＜H.Yさん(就労継続支援B型)＞

今回の宿泊研修で心に深く残った事が二つあります。それは景色とか食事とかではないのです。一つ目は静岡ダルクの施設長のお話でとても面白く分かりやすく、何度も「そうそう、うんうん」と頷くことも多かったです。依存症って薬物もアルコールも病気の出方は人それぞれだけど、根底に抱えているのは皆同じなんだな…と感じました。

もう一つは小田原城の天守閣まで登った事です。直前までかなりの疲れ。無理と思っていましたが二人だけの女性参加の中で負けていられないと覚悟を決めて最後まで登り切りました。そこで気付かされたのは「やれば出来るじゃん」という事です。久しぶりに自分を褒めました。

一步一步回復に向けて今日一日を過ごしていこうと思います。



＜箱根関所にて＞

3. メンバー状況(令和6年9月現在)

・生活訓練 0人 ・就労継続支援B型 11人

＜男女構成＞

・男性 10人 ・女性 1人

＜年代＞

・20代0人 ・30代1人 ・40代1人 ・50代8人 ・60代以上2人

＜アディクション＞

・アルコール 7人 ・薬物 3人 ・ギャンブル 4人 (重複あり)

・就労した者 3人(令和4年10月より)

4. 編集後記

10月下旬になろうとしているにも関わらず、いつまでも気温の高い日が続いています。

さて、今年も、宿泊研修プログラムを9月4日、5日に行いました。今回は、静岡ダルクを訪問して、「自分の回復について」考えてみることをテーマに取り組みました。静岡ダルクの施設長のお話は、実際にご自分の体験を交えてのお話でしたので、依存症という病気を身近にとらえ、心に刺さるものがたくさんあったようです。「ステージ制」の取り組みで、自分は今どの段階にいるのか、まだ、ここまでしか回復の段階に行っていないのか、わかりやすいステップ表を基に「今の自分の立ち位置」について改めて考えるきっかけになったようです。さらに、いつでもやり直しができる、その勇気もいただいたようです。これをもとに、当施設でも、いかにわかりやすく、「今の自分」ととらえることができるような、支援の仕組みを考えていきたいと思いました。

その後の箱根観光も、今回は、実行委員がみんなの意見を集約し、行き場所を定め、利用者一人一人がパンフレット書くという、利用者全員が主体的に関わる企画を立てて実行に移しました。今回の宿泊研修は、より収穫が大きかったようです。